近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学　健康科学部看護学科　准教授）
研究協力者：町登志雄（MASH 大阪）、宮田りりぃ（SWASH/MASH 大阪）
陰山朋久、宮階真紀（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

研究要旨

大阪地域ではコロナ禍の対応で混乱しつつ、大阪市と協働し、コミュニティセンターdistaでの検査会『dista でピタッとちぇっくん』、大阪府と協働としクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』を継続実施した。また新たにゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら実施した。大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。

初年度に 142 キット、2 年度目に 200 キット、最終年度に 124 キットの配布ができ、総計で 466 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 2 件（総計で 6 件、2.6%）、梅毒の陽性件数は初年度が 14 件、2 年度目が 10 件、最終年度が 17 件（総計で 41 件、17.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、96.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 2 名であった。

dista でピタッとちぇっくんでは令和 2 年度 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人（0.9%）、梅毒陽性者 15 人（13.2%）であった。令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人（1.4%）、梅毒陽性者 20 人（13.9%）であった。最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加した。HIV 新規陽性者 1 人（0.6%）、梅毒陽性者 8 人（4.7%）であった。

¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんでは、令和 2 年度 I 期が 224 人利用し、HIV 陽性者 4 人、梅毒陽性者 42 人、B 型肝炎陽性者 4 人、II 期は 126 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 28 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。令和 3 年度は I 期が 120 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 30 人、B 型肝炎陽性者 0 人、II 期は 113 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 21 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。最終年度は、 I 期が 134 人利用し、HIV 陽性者 0 人、梅毒陽性者 33 人、B 型肝炎陽性者 2 人、II 期は 131 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 38 人、B 型肝炎陽性者 2 人であった。

新型コロナ感染症に伴う自粛や休業に対応しながらのゆうそう検査であったが、他の検査機会を失うことなく、進行した。今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながることがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナ感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、大阪地域では自己採血による検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査のコミュニティセンターdistaでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

また大阪地域では大阪市と協働して、コミュニティセンターdista での検査会『distaでピタッとちぇっくん』、大阪府と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』も継続して実施した。

B.研究方法

コミュニティセンターdista での検査会『distaでピタッとちぇっくん』の方法は大阪市と協働し、過去に報告した内容と同様の方法で行った。曜日を固定し、隔月で 6 回の検査を行った。外国人向けに通訳も配置し、気軽に立ち寄れる雰囲気に配慮した。採血の際や結果受取時の不安等、検査の前や後の相談を行っており、初めての人やこれまで情報を届けられなかった層においては性感染症に関する知識や情報を提供できる機会も設けた。

大阪府、大阪健康安全基盤研究所と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』は広報を担った。

郵送検査キットは、コミュニティセンターdista での受け取り、イベント会場などでの受け取り、WEB での受け取りの 3 つの方法で配布した。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

1）dista でピタッとちぇっくんの概要

令和 2 年度は 114 人で、HIV 新規陽性者 1 人（0.9%）、梅毒陽性者 15 人（13.2%）であった。

令和 3 年度は 144 人で、HIV 新規陽性者 2 人（1.4%）、梅毒陽性者 20 人（13.9%）であった。

最終年度は、利用者は 171 人で前年度より増加した。HIV 新規陽性者 1 人（0.6%）、梅毒陽性者 8 人（4.7%）であった。

2）¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんの概要

令和 2 年度は I 期が 224 人利用し、HIV 陽性者 4 人、梅毒陽性者 42 人（うち既往 13 人）、B 型肝炎陽性者 4 人であった。II 期は 126 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 28 人（うち既往 18 人）、B 型肝炎陽性者 1 人であった。

令和 3 年度は I 期が 120 人利用し、HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 30 人、B 型肝炎陽性者 0 人であった。II 期は 113 人利用し、

HIV 陽性者 2 人、梅毒陽性者 21 人、B 型肝炎陽性者 1 人であった。

最終年度は、Ⅰ期が 134 人利用し、HIV 陽性者 0 人、梅毒陽性者 33 人（新規 5 人）、B 型肝炎陽性者 2 人であった。Ⅱ期は 131 人利用し、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 38 人（新規 2 人）、B 型肝炎陽性者 2 人であった。

3）ゆううそう検査

令和 2 年度は総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名（79.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。

令和 3 年度は総計 200 キットを配布し、実際に検体を郵送会社に郵送したものは 83 人であった。そのうち 97.6%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件（推定新規陽性率 1.7%）、梅毒の陽性件数は 10 件（既感染も含む）（推定新規陽性率 1.7%）であった。検体を郵送した 83 人のうち、60 人はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 22 名においては、30 歳未満が 18.2%を占めた。近畿地域の居住者が 95.5%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 13.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 63.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 22.7%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 38 人においては、30 歳未満が 15.8%を占めた。近畿地域の居住者が 89.5%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 15.8%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 34.2%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 39.5%であった。

最終年度は dista 来場者への配布は 21 人、イベント会場では 29 人が受け取り、WEB では 74 人に配布し、総計 124 キットを配布した。このうち、郵送検査会社での受付数は対面配布が 18 件（36.0%）であり、WEB 配布が 49 件（66.2%）であった。

アンケートに回答したもので有効回答であったのは 125 人であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 67 人であった。そのうち 98.5%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件（推定新規陽性率 3.0%）、梅毒の陽性件数は 17 件（既感染も含む）（推定新規陽性率 13.4%）であった。

連動可能であった人数は少ないが、郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 14 人においては、30 歳未満が 7.1%を占めた。近畿地域の居住者が 85.7%であった。生涯初の検査経験割合は 0.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 14.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 28.5%を占めた。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 27 人においては、30 歳未満が 37.0%を占めた。近畿地域の居住者が 70.4%であった。生涯初の検査経験割合は 29.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 70.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 44.4%を占めた。

D.考察

distaでピタッとちぇっくんの利用者は新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた令和 2 年度から年々増加している。¥0 性病検査！頼れる街のお医者さんの利用者は令和２年度のＩ期はコロナ禍以前の 200 人台であったが、2 期は少なく、その後緩やかに増加している。ゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら、３年間の利用率は 50.9%となった。

コミュニティにとっては検査の選択肢を増やすことに繋がっているものの、利用者の増減があり、今後継続していくためにはニーズを把握する必要がある。

大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。とはいえ、コミュニティセンターdistaがないと個の活動の継続性は見込めず、クリニック検査や dista でピタッとちぇっくんでも HIV 陽性の割合が維持されていることから、感染リスクがある人の中でも検査機会の選択肢の利用ニーズは異なる可能性がある。新型コロナ感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

E.結論

大阪地域ではコロナ禍の対応で混乱しつつも、大阪市と協働して、コミュニティセンターdista での検査会『dista でピタッとちぇっくん』、大阪府と協働としたクリニック検査『¥0 性病検査！頼れる街のお医者さん』も継続して実施した。また新たにゆうそう検査は手法や時期について試行錯誤を繰り返しながら実施した。大阪では HIV、梅毒ともに陽性結果は WEB 配布での利用者からのものであり、これまでリーチしにくかった層に届いている可能性がある。

初年度に 142 キット、2 年度目に 200 キット、最終年度に 124 キットの配布ができ、総計で 466 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 2 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 2 件（総計で 6 件、2.6%）、梅毒の陽性件数は初年度が 14 件、2 年度目が 10 件、最終年度が 17 件（総計で 41 件、17.7%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、96.6%~98.5%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3

年間で 2 名であった。

新型コロナ感染症に伴う自粛や休業に対応しながらのゆうそう検査であったが、他の検査機会を失うことなく、進行した。今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

F.研究発表

1.論文発表

1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, AIDS Care, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
2) 金子典代, 塩野徳史：コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. 日本エイズ学会誌, 23(2), 2021.
3) 宮田りりぃ,塩野徳史,金子典代：MSM（Men who have sex with men）に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. 日本エイズ学会誌, 23(1), 18-25, 2021.
4) 金子典代,塩野徳史：MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. 日本エイズ学会誌,22(3), 136-146,2020.

2.学会発表（国内）

1) 塩野徳史.日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-.日本エイズ学会 2022 年 浜松.
2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. 日本エイズ学会 2022 年 浜松.
3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. 日本エイズ学会 2021 年 東京.
4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. 日本エイズ学会 2020 年 千葉.

G.知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

1.特許取得　　なし
2.実用新案登録　なし
3.その他　　なし

表１　郵送検査利用者の概要（令和２年度 -R３年度）

年度	R2	R3	R4	
地域	大阪	大阪	大阪	
CBO	mash大阪	mash大阪	mash大阪	計
コミュニティセンター	dista	dista	dista	
a 配布数	142	200	124	466
対面配布数	69	132	50	
WEB配布数	73	68	74	
b 受検者アンケート回答者数	103	92	103	298
c 利用者数；郵送検査会社での受付数	87	83	67	237
対面配布数(c対面/a対面)	( )	( )	18 (36.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)	( )	( )	49 (66.2%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)	61.3%	41.5%	54.0%	50.9%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）	84 (96.6%)	81 (97.6%)	66 (98.5%)	231 (97.5%)
抗体検査結果	*重複感染（1名）		*重複感染（1名）	*重複感染（2名）
□ HIV感染症				
e 判定不能者数（割合 e/c）	1 (1.1%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)
f 陽性数（割合 f/c）	2 (2.3%)	2 (2.4%)	2 (3.0%)	6 (2.6%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	2.5 (2.9%)	1.4 (1.7%)	2.0 (3.0%)	
□ 梅毒				
g 判定不能者数（割合 g/c）	1 (1.1%)	4 (4.8%)	0 (0.0%)	5 (2.1%)
h 陽性数（割合 h/c）	14 (16.3%)	10 (12.7%)	17 (25.4%)	41 (17.7%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*	6.4 (7.4%)	1.3 (1.7%)	9.0 (13.4%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）	69 (79.3%)	60 (72.3%)	41 (61.2%)	170 (71.7%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）	( )	59 (71.1%)	57 (85.1%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）	( )	44 (53.0%)	37 (55.2%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。